

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲保 第 33 号 乙保	氏名	杉本博子
審査委員	主査 近藤 和也 副査 森 健治 副査 岩本 里織		

題目 The Relationship among Chronic Disease, Feeling-for-Their-Age, Sleep Quality, Health-Related Quality of life and Activities of Daily Living of Community-Dwelling Persons over 55 Years of Age
 (地域で生活している55歳以上の方の慢性疾患, 年齢の捉え方, 睡眠の質, 健康関連 QOL, 日常生活行動との関係性)

著者 Hiroko Sugimoto, Tetsuya Tanioka, Yuko Yasuhara, Arisa Kurokawa, Miki Sato, Kazuhiro Ozawa, Rozzano Locsin, Soichi Honda
 2018年1月発行 Open Journal of Psychiatry, Volume8 No.1, pp.20-34, に掲載済

要旨 本研究の目的は、地域で生活している 55 歳以上の方の慢性疾患, 睡眠の質, 健康関連 QOL, 日常生活行動の関係性について明らかにすることであった。
 調査対象者は、57 歳から 90 歳の A 病院の外来患者 161 名であり、調査期間は 2016 年の 7 月から 2017 年の 1 月であった。調査内容は、(1)日本語版ピッツバーグ睡眠調査票(PSQI-J)を用いた睡眠の質の評価、(2) Short-Form 8 Health Survey (SF-8) を用いた健康関連 Quality of Life(HRQOL)の評価、(3)日常生活行動：運動、仕事、趣味、日中の眠気、昼寝、喫煙、咀嚼能力、義歯の有無の評価であった。睡眠の質および HRQOL に関係している主要な要因を明らかにすべく、単変量解析で有意な変数を抽出し、ステップワイズ法でロジスティック回帰分析を行った。睡眠の質が悪い要因では、がんの既往(オッズ比 OR: 3.53, 95%CI: 1.06-11.77), 不眠症 (OR: 3.25, 95% CI: 1.55-6.79) があることであった。身体的な HRQOL が低い要因では、運動器疾患 (OR: 2.60, 95%CI: 1.34-5.07), 呼吸器疾患 (OR: 3.24, 95%CI: 1.17-8.26), 痛み(OR: 11.71, 95% CI: 5.35-25.66) があることであった。貧血は精神的 HRQOL が低い要因(OR: 4.87, 95% CI: 1.11-21.33)であった。
 一方、体の年齢の捉え方が実際の年齢よりも若いこと(OR: 0.30, 95% CI: 0.15-0.59)は、睡眠の質を悪化させにくい。気持ちの年齢の捉え方が実際の年齢よりも若いこと(OR: 0.44, 95% CI: 0.21-0.92)も身体的 HRQOL を低下させにくい。
 以上のことから、睡眠の質が悪い要因は、がんの既往であった。睡眠の質に良い要因は、体の年齢の捉え方が若いことであった。身体的 QOL に良い要因は、気持ちの年齢を若いと捉えていることであった。
 本研究で得られた知見が、外来での治療・看護、地域での保健活動に与える影響は大きく、有意義な内容である。その社会的意義は大きく、博士の学位授与に値すると判定した。